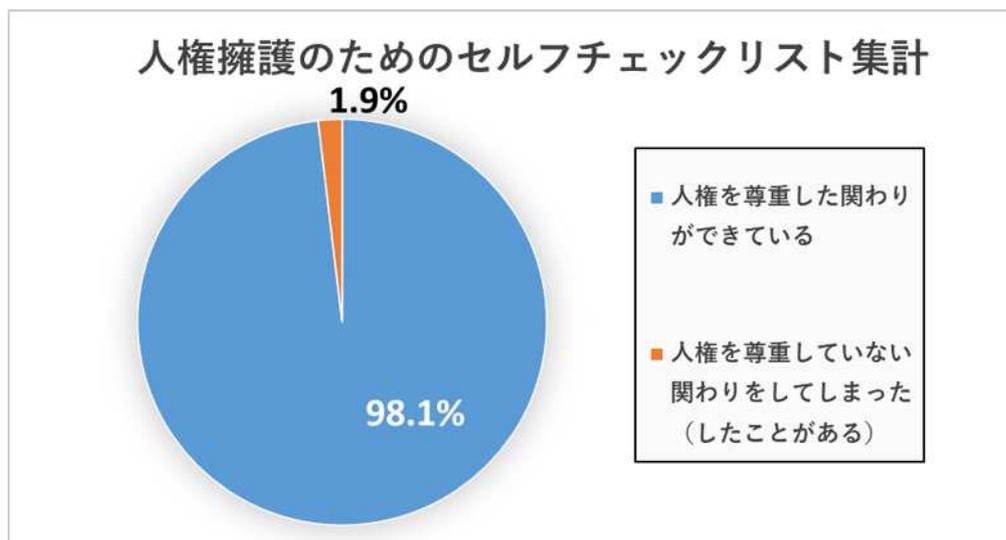


**本町保育所** 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）  
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト  
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.9%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、前回もパーセンテージが高く出ていました。日々の中でどうしてもすぐに子どもたちの話を聞くことができない場面は多々ありますが、その場合にどういう伝え方が子どもにとって最適なのか改めて意見交換しました。忙しい場面でもまずは手を止め、子どもたちの声にしっかり耳を傾け、それぞれの年齢に合わせた言葉で丁寧な対応を実践していくことを確認しました。

・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して「おしっこ出ない」と訴えていてもトイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、どうしても活動の前にはトイレに誘うことがあり、特に散歩や遠足など園外に出る際は行って欲しいという職員の思いが優先してしまうのではないかなどの意見がありました。活動の節目にはトイレに誘うことはあるが、基本的には本人の気持ちを優先すること、トイレに促す際も脅しになるような声かけや否定的な声かけにならないようにすることなどを実践し、子どもの自尊心傷つけず排泄できるようにすることを確認しました。

・寝かしつける際にいつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、どうしてもなかなか寝付けない子についてしまうことが多く、現状ではまんべんなく色々な子についてあげることが難しいとの意見が出されました。また、幼児の午睡については、寝る・寝ない、午睡時間など今後検討すべき点が多々あり、今回のこの項目をきっかけに、さらに午睡について考えていくことを確認しました。今後継続して検討していきたいと思えます。